共同堆肥舎と
ローカル SDGs を考える
地域円卓会議

共同堆肥舎を中心とした地域循環型農業を実現するために、
必要な連携のあり方・巻き込み方をみんなで考える

実施報告書

日　　時：　2025 年 2 月 4 日（火）10:30-13:30（受付開始 10:00-）
場　　所：　うるマルシェ会議室　うるま市民食堂 2F（沖縄県うるま市字前原 183－2）
主　　催：　琉球大学共創拠点運営部門地域共創プロジェクトチーム
協　　力：　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】共同堆肥舎とローカル SDGs を考える地域円卓会議

■日　　時：2025 年 2 月 4 日（火）10:30-13:30
■場　　所：うるマルシェ会議室 うるま市民食堂 2F
■着席者数：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：60 名（畜産・耕種農家、企業、教育機関等）
■主　　催：琉球大学共創拠点運営部門
　　地域共創プロジェクトチーム
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄
　　NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　仲村 一郎（琉球大学農学部 准教授）

共同堆肥舎を中心とした地域循環型農業を実現するために、必要な連携のあり方・巻き込み方をみんなで考える

うるま市近隣の畜産農家の方々が連携して共同堆肥舎を設置運営するプロジェクトが動いています。施設の共同運用により各畜産農家の糞尿の堆肥化を効率化し、環境に配慮した持続可能な畜産業を目指します。畜産業から出る糞尿は堆肥化することで、環境に優しい有効な肥料になります。得られた堆肥で地域の農作物を作り、それを地域で消費することは、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていくローカル SDGs に繋がります。今回の円卓会議では、連携が期待されるステークホルダーとの対話を通して、当プロジェクト実現に向けての課題を確認していきます。

センターメンバー

仲村 一郎
琉球大学農学部
准教授

安次富 尚
あしとみ畜産
代表

識名 共史
識名農園

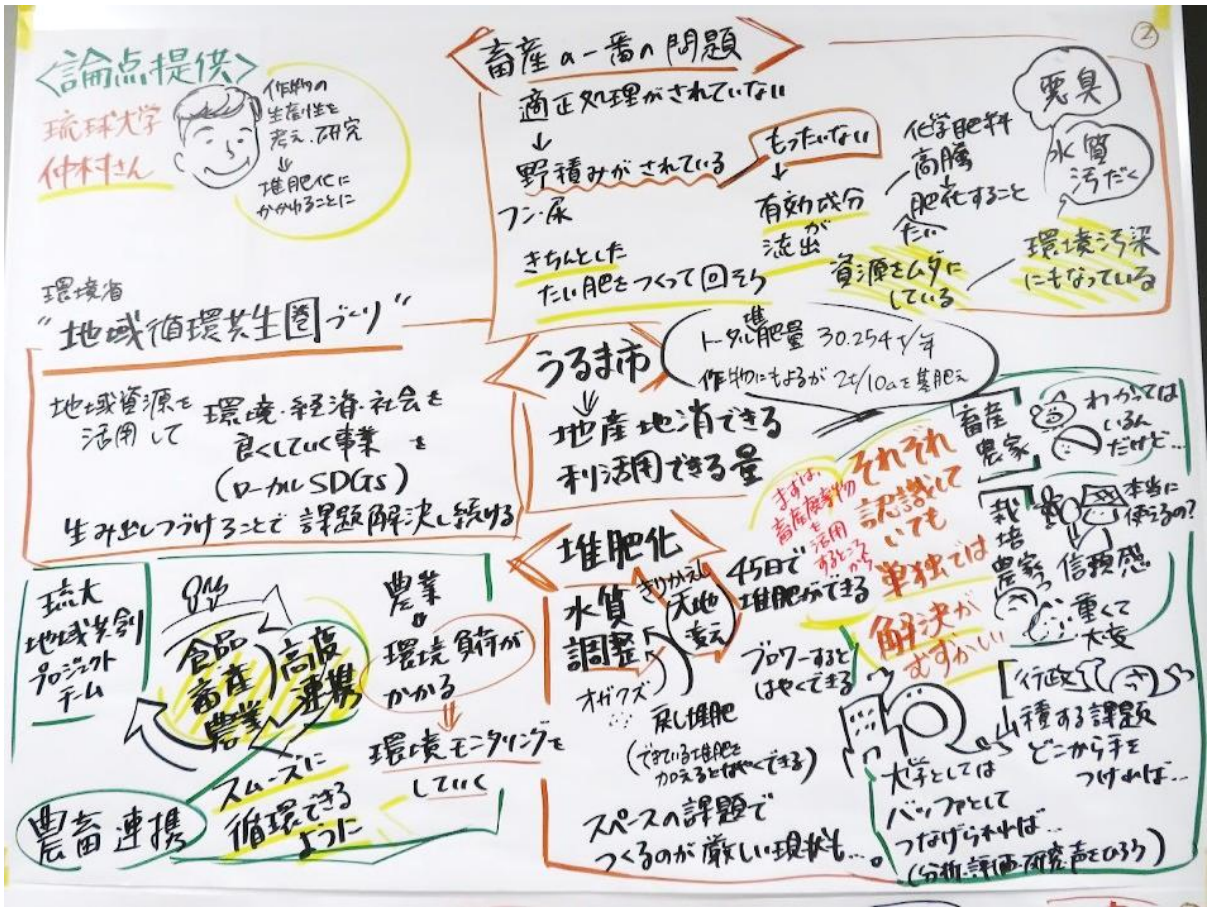
普天間 翔吾
うるま市
農林水産部
生産振興課畜産係
主事

宮城 健
株式会社ファーマーズフォレスト
取締役沖縄支社長
うるマルシェ
統括支配人

安藤 英樹
株式会社
サンクラフト
代表取締役

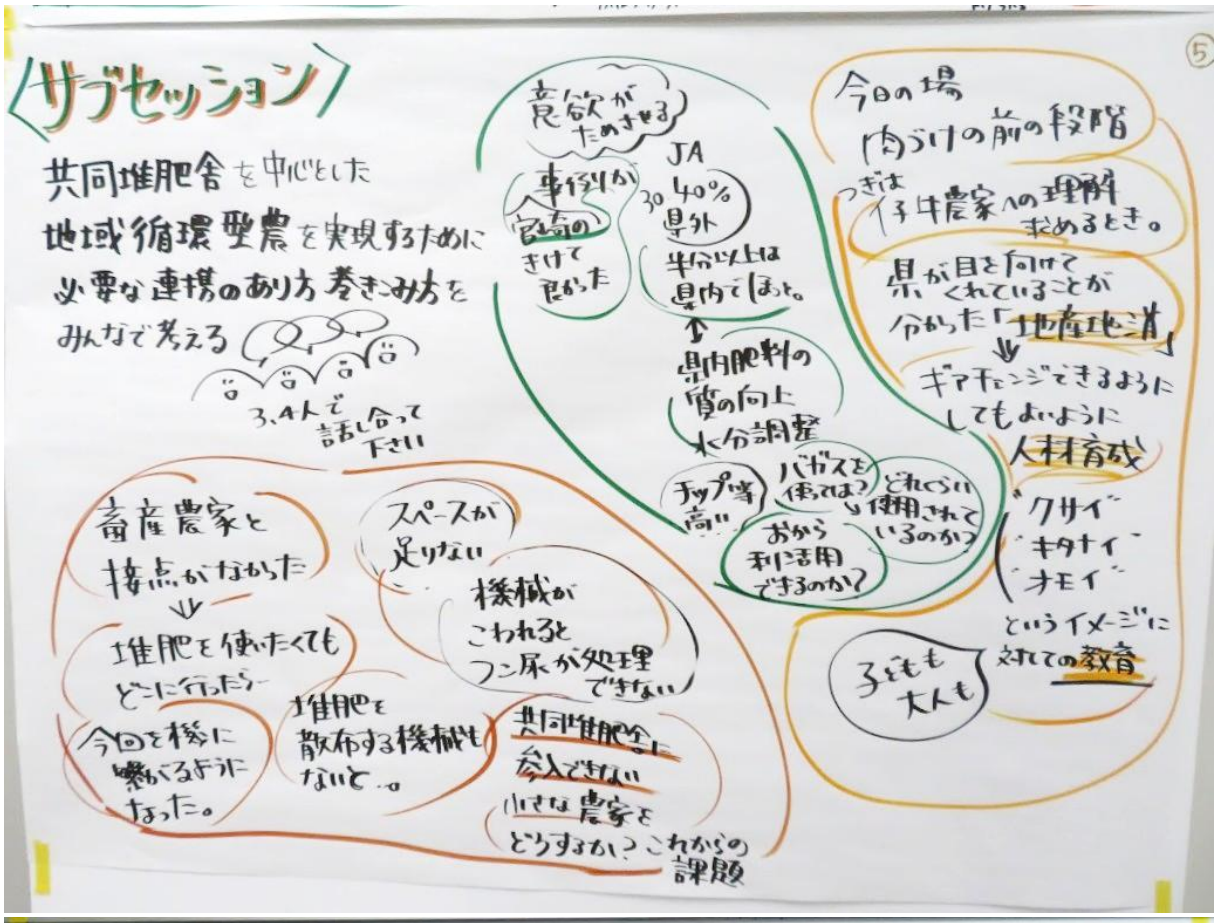
＜板書記録＞

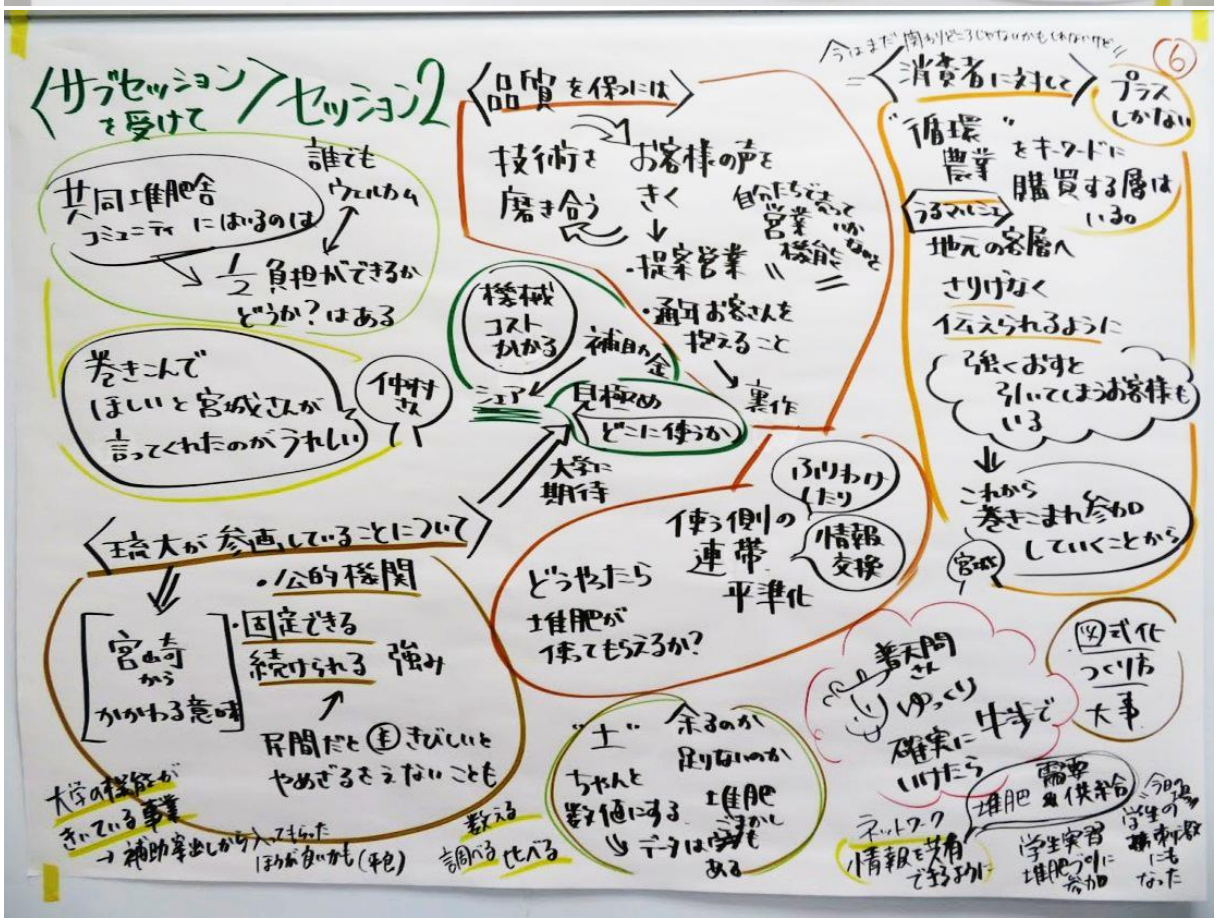
共同堆肥舎と
ローカルSDGsを考える
158回
地域円卓会議
2025.7.4.(火)@うるマルシェ会議室
10:30~13:30
<論点提供>
仲村一郎
<司会>
平良斗星
安次富尚
識名英史
安藤英樹
普天間翔吾
宮城健
テーマ
共同堆肥舎を中心とした地域循環型農業を実現するために必要な連携のあり方 巻きこみ方をみんなで考える
主催
・琉球大学共創拠点 運営部門 地域共創プロジェクトチーム
協力
・公益財団法人 みらいファンド沖縄
・NPO法人 まちなか研究所わくわく
2/14 文化財に づく円卓会議 @うるマルシェで
地域の困りごとを社会課題として共有 共感する場
イシューレイジング


＜論点提供＞
琉球大学
仲村さん
作物の生産性を考え、研究
堆肥化にかかわることに
畜産の一番の問題
適正処理がされていない
野積みがされている
フン・尿
きちんとした たい肥をつくって回そう
もったいない
有効成分が流出
化学肥料 高騰
肥料化すること
たい肥
資源をムダにしている
悪臭
水質汚濁
環境汚染にもなっている
環境省
"地域循環共生圏づくり"
地域資源を活用して 環境・経済・社会を良くしていく事業を (ローカルSDGs)
生み出しつづけることで課題解決し続ける
うるま市
地産地消できる利活用できる量
トータル堆肥量 30.254t/年
作物にもよるが 2t/10aを基肥元
堆肥化
水質調整
オガクズ
きりかえし
天地返し
45日で堆肥ができる
ブロワーすると はやくできる
戻し堆肥
(できている堆肥を加えるとはやくできる)
スペースの課題でつくるのが厳しい現状も…。
まずは畜産廃棄物を活用することから
それぞれ認識していても
単独では
解決がむずかしい
畜産農家
わかってはいるんだけど…
栽培農家
本当に使えるの?
信頼感
重くて大変
行政
山積する課題 どこから手をつければ…
大学としては バックとして つなげられれば…
(分析・評価・研究・声をひろう)
琉大 地域共創プロジェクトチーム
食品 畜産 農業
高度連携
農業
環境負荷がかかる
環境モニタリングをしていく
スムーズに循環できるように
農畜連携

③
畜産農家
あしとみ畜産 安沢富さん
18年目
フン堆肥化
野ラウみ 畑にそのまま まいてる
牛フンのままで止まっている
畜産一番の課題
畜産農家の声
昔からやってるし
これぐらいなら…
悪いことは
循環できる状態じゃない
堆肥化にしてスタートラインにたちたい
畜産家の意識が あれば、県や市への理解も得られる
場所があれば取り組める
牛舎では場所がない
共同堆肥舎の取り組み
11農家が協力
資源活用
環境汚染を防ぐ
良い堆肥を作れば ビジネスにもなる
(トントン、プラスマイナスゼロのに)
まずは
識名農園
識名さん
堆肥づくり 土づくりも
親の代から
有機栽培
自然由来の原料でつくられたものを使っている
含有量が少ない
量が必要
まき方
手間がかかる
入手が難しい
(レギュラーで手に入るものでもない)
手方法
体力が必要
工夫が必要になる
機械をかしてまでいる
使う側の課題
質としてはどうか?
有機物としてどうなのか?
成分はあまり気にしていない
温度をしっかりあげてのこっているものが発芽しないか等
きちんとした堆肥を作るのは必要かも
栽培農家
つくるならまくまでセットで考えないといけないのでは?

④
うるま市 善天間さん
うるま市の状況
R2~循環型農業協議会
議論、調査の取りまとめをしている
琉大連携の成果
堆肥の問題
琉大が関わったことですごく進んでいる
以前は「行政がやるもの」今は、農家のみなさん自身で協働している
行政としても協力しやすくなっている
不透明→具体性 実現性が高まった
手の打ち方がわかるように
なんとかしてくれ
琉大さん
農家さん
結果的に農家のレベルも上がったのでは?
安藤さんから視点
既存の堆肥舎の使い方見直し
共同堆肥舎
スケールプランで考えつつまずはミニマムでつくる
例えば・広報費用
行政と協力関係ができるように
現状を今日した…
うるマルシェ 宮城さん
ファーマーズフォレスト
ブランド化につながる
現在うるま米 地域ブランドとして販売している
地域資本になる
地域のためにも
きらにこれから循環型として堆肥売っていけたら
参画することの意味 意義は大いにあるのですすめたい
宮崎から(株)サニクフト
安藤さん
島外肥料が島内に大量に入る問題
1対4 自給バランスが悪く、外に出すしかなかった。
宮崎県 委託要望 温度が上がらない こうてい液
取り組んでみての視点
宮古でまとめようと思っても難しかった
そのためにはまとまらないと量も
同じ品質で欠品なく届ける
うるま140
使うアピール作る
140の考え方がある まとまるのは大変
買ったほうも売ったほうもメリットないとまわらない
〈作る〉 どこまでコストを下げられるのかを考えてみる 量も必要
〈使う〉 補完しながら使い、どちらかになくても
物流コストは地産地消で下げられる


⑤
〈サブセッション〉
共同堆肥舎を中心とした
地域循環型農を実現するために
必要な連携のあり方 巻きこみ方を
みんなで考える
3,4人で話し合って下さい
意欲がためされる
事例が宮崎のきけて良かった
JA
30 40%県外
半分以上は県内でほしい。
県内肥料の質の向上
成分調査
チップ等高い
バガスを使えば?
どれくらい使用されているのか?
おから利活用できるのか?
今日の場
肉づけの前の段階
つぎは子牛農家への理解
求めるとき。
県が目を向けてくれていることが分かった「地産地消」
ギアチェンジできるように
してもよいように
人材育成
クサイ
キタナイ
オモイ
というイメージに対しての教育
子どもも大人も
畜産農家と接点がなかった
堆肥を使いたくても
どこに行ったら
今回を機に繋がるようになった。
スペースが足りない
機械がこわれると
フン尿が処理できない
堆肥を散布する機械もないと…。
共同堆肥舎に参入できない
小さな農家を
どうするか? これからの課題


⑥
〈サブセッション〉を受けて〈セッション2〉
共同堆肥舎コミュニティにはいるのは
誰でもウェルカム
1/2 負担ができるかどうか? はある
巻きこんでほしいと宮城さんが言ってくれたのがうれしい
宮城さん
〈品質を保つには〉
技術を磨き合う
お客様の声をきく
自分たちで考えて営業機能
・提案営業
・通常お客さんを抱えること
裏作
機械コストかかる
補助金
シェア
見極め
どこに使うか
大学に期待
〈消費者に対して〉
今はまだ関心どころじゃないかもしれないけど
プラスしかない
"循環農業"をキーワードに購買する層はいる。
つるかめ
地元の富層へさりげなく伝えられるように
強くおすと引いてしまうお客様もいる
これから巻きこまれ参加していくことから
宮城
〈東大が参画していることについて〉
・公的機関
宮崎から かかわる意味
・固定できる
続けられる 強み
民間だと生きびしいとやめざるをえないことも
大学の機能がきいている事業
→補助金出しながら入ってもらった
ほかが負けかも(平色)
数える
調べる
比べる
使う側の連帯
ふりわけたり
情報交換
平準化
どうやったら堆肥が使ってもらえるか?
"土"ちゃんと数値にする
余るのか足りないのか
堆肥
データは少ないもある
善太郎さん
ゆっくり確実に牛等で
いけたら
図式化
つくり方
大事
需要と供給
ネットワーク
情報を共有で多くみる
堆肥
学生実習
堆肥づくりに参加
今回の学生の活動は
にもなった

■今後のアプローチの方向性（提案）

1）畜産農家と耕種農家、それぞれの意識改革

畜産農家は家畜排せつ物の適正処理（堆肥化）や野積（不法投棄）の問題を、義務としては認識しているができなくても仕方のないこととして捉えていることに対する意識改革が必要である。また、耕種農家側の課題としては、堆肥の成分評価や品質管理が十分でなく、使い方の理解も不足しているため、その啓発とともに、適切な活用の仕組みを構築する必要がある。そして、畜産と耕種の農家間の連携が重要で、堆肥を活かした農業の推進には相互理解が不可欠。

2）流通と消費者のコミュニケーション、売り方

堆肥を活用した農産物の付加価値を、消費者にどう伝えるかが重要。有機農業の手間やコストを理解しつつ、適正価格で販売できる仕組みを構築する必要がある。流通のパートナーと協力し、「物語を持った商品」としてブランディングすることで、競争力を高めたい。

3）行政の役割

共同堆肥舎の設立や補助金申請支援など、制度面でのバックアップが求められるが、関与の仕方には農家間で不満もあるため、透明性と公平性が必要。野積問題の指導を行う立場にあるが、関係が悪化する可能性もあり、大学を介して協力関係を築くことが有効だと考える。データを活用したエビデンスをもとに、行政が農業政策に積極的に活かせる形を整えていくことが重要。

4）大学が仲介者となる意義と機能

琉球大学が農家・行政・流通を繋ぐ中立的な立場として、信頼関係の構築に貢献可能な立場であることがわかった。行政だけでは対応しきれない持続的な課題（堆肥管理、流通調整、品質評価など）に対し、専門知識と継続性を持って関与できること。また、1 対 1 の関係ではなく、多くのステークホルダーを巻き込むことで、協力関係を生み出しやすくする仲介の役割を果たす。

この 4 点を軸に、地域循環共生圏の形成と持続可能な堆肥活用の仕組みづくりを進める必要がある。

■参加者によるサブセッション

共同堆肥舎を中心とした地域循環型農業を実現するために、必要な連携のあり方・巻き込み方をみんなで考える

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

- 地域ごとには色々している。広がる段階
- 意識改革が必要な段階
- 波及効果
- 大きくなると時間がかかるので、うるま市で始めて展開

考え（教育）これは市がやり易い

- 小さな歯車を組み合わせて動かしていく
- 訴求の方法、言葉の選び方も大事
- プランター栽培を学童でしている（農業委員会）
- 汚いものをきれいと思う教育
- 国の上限１／２に県が上乗せ
- 市の広報との連携
- 教育
- 他の機関とも協力しながら肉付け、見せ方の工夫
- 予算はきっかけ、地産地消のビジョン
- 行政の役割は限定的　農家のやる気⇒市民の

②

（農家）研修中

- 農業を聖域化しないこと
- リン酸、チッソ、カリ　堆肥　すべて含む
  Ca. K. P. N. C
  有機窒〇は野菜がおいしい
- 対話しながら堆肥を育てる
- アメリカ産はかわない（遺伝子組み換え）草のたねが入ってる
- 常に供給できるかが大事
- 環境支払いはどうか？
  →基準があいまいかな

③

市教育委員会

バイオジェット

- 安藤さん意見が適確で良い
  宮崎の事例をふまえ
- 県産堆肥水分高い
- チップの状況
- モミガラ手に入りにくい
- ハガスを使えば（製糖工場）
- エサ→オカラ＝水分多い（課題、量多）
- 戻し堆肥で水分調整
- 石垣は公共事業ではけている

④

耕種－野菜 16 年目

ちくさん

（環境省）－なは事務所／民間から地域じゅんかん共生

ちくさん

（耕）

- のうかの接点がない→農委でつながり、これから発展
- 堆肥を使いたくても

（畜）

- ふんにょう処理ができてないことに気づき作りはじめた
  スペースが足りない、きかい故障等で大変、協同でやることでかいけつ

牛舎+堆肥舎

大きさ　増額

散布の機械レンタル

運搬車

⑤

（家畜ふん尿処理課題）

- ご自身で、堆肥化し草地に散布している。
- 業者へ運んでいる。（ご自身で）
- 業者からの副資材（木チップ）を混ぜて、水分調整を行う。
- 運搬· 副資材（チップ）の提供を頂きたい 。※牛の飼養管理のため
- 共同施設を運営するに当たり各週のローテーションや機械の管理を行う必要がある。
- 堆肥として使用するのに要する期間は約 30 日。(1 ヵ月)
- さとうきび生産者へ製品化した堆肥を使用する。

⑥

臭いの問題はあるか、クレームこない？

消費者から、この堆肥つかうと雑草がはえるって言われた、JA 園芸部

らくのうのフンは水分が多いのでガスとれる？

肉牛はどうなのか知りたい

まく問題、人気なのはペレット化では？

さんぷき、面積広くないとむずかしい

時期、はんぼうき、さんぷまにあうのか？

他　7、8 日期間げんていでバラを売っている

品質の安定化大事、価格

⑦

農家が意識高い

ちゃんとしたものを作らないとダメ

琉大がかかわってるのすごい

西原でも同じことやった、リーダー大事

農業者若手クラブが１つ住場が１つ、西原

ナゴたい肥センターは汚でい処理で利益あげてる

修〇〇が高くなっている

一般の方にうったえて買ってもらえるようにしたい

⑧

1 週間（week）一軽トラ 4 台

- 耕種農家と畜産農家との接点がそもそもなかった一改善期待
- 散布に限界

小規模ノウカが共同堆肥舎へ参入できるかどうか？

課題－JA、琉大

県産堆肥の品質向上

→水分調整材の調達難しい

→バガス、おからなどの活用

- 畜産農家の意識改革
- 耕種ノウカの意識改革（課題共有）
- 子供らへの意識付け
- 肥料取締法
- 母牛 16 頭 → 3 日 草地→牧草
  →フンの処理が追いつかず増頭が難
- 野積み
- 将来への布石

☆沖縄有機　ゼロ円→11.000 円／4 トン
⇒2.750 円／トン

散布・販売がセット

☆ハード面（設備・散布・機械）の整備

⑨

- 沖縄市で化肥のみでやっている、水こう
- ハウスでくだもの作っている
  堆肥は大変なので使ってない
  1 万/10t 沖縄有キ→1.5 万になったのもあって使ってない
- 畜産飼料営業→環境省へ
- 東北は共同堆肥舎は半分以上うまくいってない
  大キボ化で共同堆肥舎が不要になるから小キボで成立する（畜・耕共に）状況がないとうまくいかない
- 化肥→堆肥に切りかえるには説明できる人がセットになる必要アリ

⑩

検査会社、飼料会社、畜産農家、コンサル会社

- 自社で処理している、草も自社　ジュンカンしている
- 投資対効果がみえない
- 宮崎、トリの場合、水分 50% 1,000 円

共同堆肥舎とローカル SDGs を考える地域円卓会議
参加者アンケート集計

◆概要

・日時：2025 年 2 月 4 日（火）10:30 - 13:30

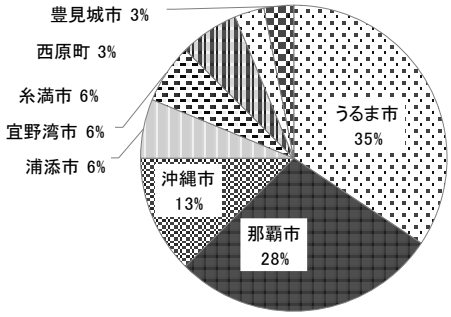
・場所：うるマルシェ会議室 うるま市民食堂 2F

・着席者：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）

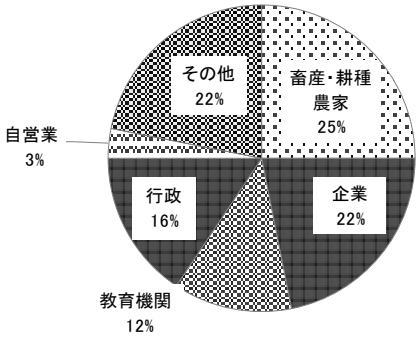
・参加者：60 名（畜産・耕種農家、企業、教育機関等）

（アンケート回収 32 名、回収率 53%）

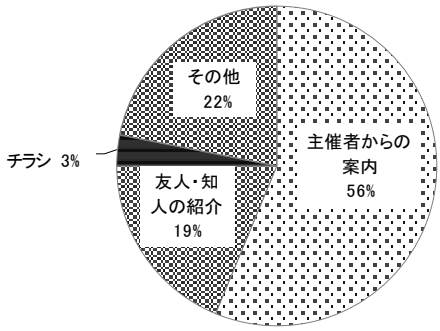
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.5（5 点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
20 名	6 名	2 名	2 名	0 名	2 名

５．満足度の理由

（５．満足）

- 幅広い意見が聞かれた。
- 共同堆肥舎参入は循環型農業からしても大いに賛成である。与那城町議会議員時代もどうにか出来ないかと問題にしていた。
- 畜産農家さんや県外の企業さんの話が聞けた。
- 円卓会議という手法が良かった。ステークホルダーの属性に応じた意見や受けとめが聞けたのが勉強になった。またその中で課題がうきぼりになった。
- 色々な方々と話が出来て楽しかった。
- 実際に現場で肉用牛生産を行っている方や多方面の関わりや対談を行う切っ掛けになりました。個々の思い描く課題や要望にも違いがあり、集約し共通課題より解消できればと思いました。
- 色んな人が自分なりの立場でしゃべっていて分かり易かった。数字をもっと聞きたかった。
- セッション I の出席者紹介でさまざまな意見が聞けた事。
- 幅広く意見を聞くことができた。
- 知識がふえた。
- 畜産、栽培、どちらの現状も知ることができたから。
- 異なる立場の方々の意見を聞けた。

・ ふん尿問題の現状や重大さを知れた。堆肥化のビジネスチャンス。
・ ステークホルダーからの視点での意見が相互に共有されていたと思う。
・ 予想よりもとても良い会議でした。結論は出さないで共有というのもよかった。様々な意見が聞けて本当に良かった。
・ 地域の課題を明らかにし、地域の方々、外部の有識者からの意見を伺えるのはいい機会。我々も何かサポートしたい。
・ 各分野からの実直な考え方の紹介、ビジネスの部分ですごく納得しました。農業の意識改革につながると期待したい!!
・

（４．概ね満足）
・ 参加者が予想より多くいろんな意見が聞けた。
・ たくさんの方が興味を持って話を聞いていたので良かった。
・ 分かりやすく色々な情報が聞けて良かった。
・ メリットデメリットどちらも出たいい会議だと思った。
・ 直接畜産農家の困り事等をヒアリングできたのは良かった。堆肥化に特化した円卓会議でしたが併用してエネルギー化等も出来ればおもしろいと感じた。
・ 様々な業種の人が参加したことでそれぞれの視点からの意見をきくことができた。さらに実現に向けて進むことができたと思った。
・

（３．普通）
・ 質疑応答の時がなく残念。（セッションＩの後）→意見がいらないなら呼ばないでほしい。スライドの内容を配布しないのはなぜか？全農家が堆肥処理が出来てないようなイメージを植え付けないで欲しい。まじめに処理をしてきている農家は何なの？と思われる内容に感じました。50 名ほぼ関係者。現場の声じゃない。
・ 一般論や度々聞く話が多かった。一方興味のある方が集まり考える機会は重要と思う。
・

（２．あまり満足しいていない）
・ 最初の会議の論点がまとまっているのか分かりづらかった。テーマ、論点を紙で配って意見交換の時間を多くとった方が良かった。関係者が多く考えてもらいたい。一般の農家さんの参加が少ない。
・ 共同堆肥舎を利用する農家（畜産）がすでに決まっていたとは知らなかったので「？」と残念でした。
・

（未記入）
・ 畜産農家さんと協働で堆肥問題や牛舎問題について、議論、検討、調査（事例）を行っており、その情報源として。

６．円卓会議で印象に残ったこと
・ 情報共有と連携。
・ 円卓着席者の頑張りと畜産、農業関係に大いに勉強されており、一緒にやりたいものである。行政との連携を伺え安心した。県内にあるのに県外から持ってきているとの話にどうかなと思うものです。みんなでまとまる事。
・ サンクラフトさんは１農家ずつチームに入れていって成功された。
・ 循環に関わるそれぞれが winwin となって、結果として循環となるという視点、そのために収益性（コスト・販路）を考えていくことの重要性。
・ 教育を子供も大人もする。
・ 共同堆肥舎を運営するにあたり、販売基準額は「2750 円」であり下回る場合は赤字に陥る可能性がある。耕種農家と畜産農家の繋がりがなかなか無いため、協議の場を設けることも重要。
・ マニアスプレッダーがほしい。ちょこさん（板書）すごい。

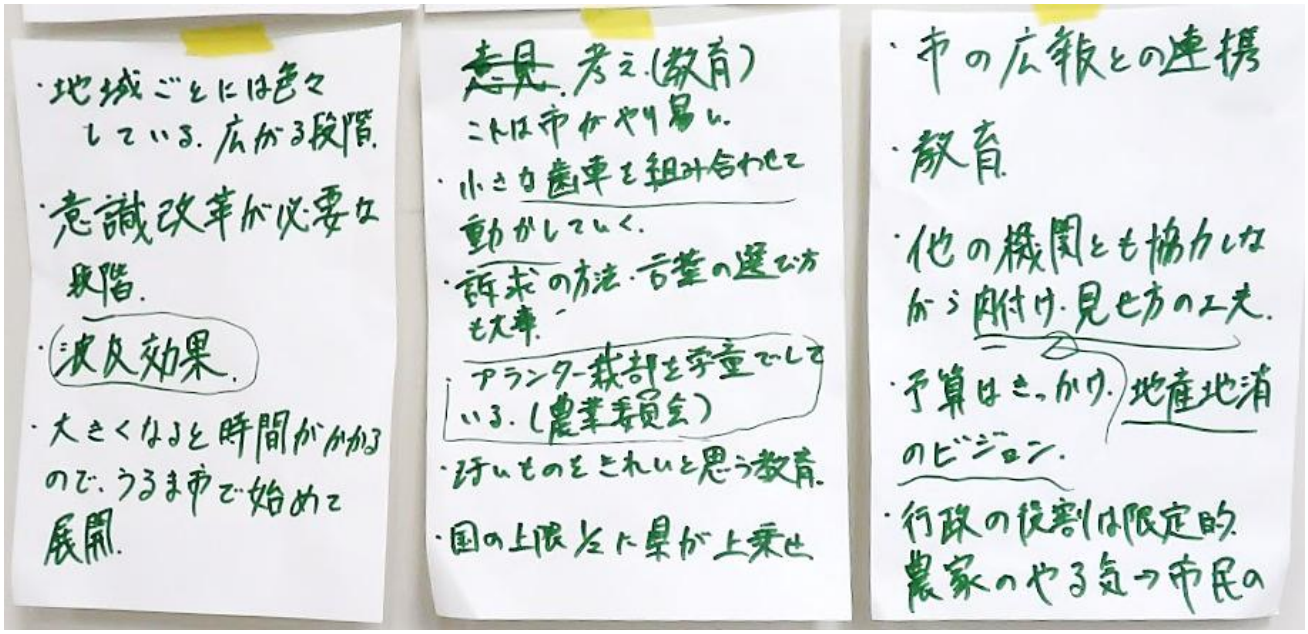
- 共同堆肥舎がうるま市で成功することを願ってます。
- 安藤さんによる意見。
- 堆肥の事例。
- 販売者責任、クレーム対応、どうするか考えないといけないと思った。
- 宮崎の堆肥のことが印象に残った。
- 耕畜連携には人のつながりや情報共有が重要だということ。
- 今後の展開に期待できた。
- 質問の問いかけに話者自身のことも混ぜるのは、話し易くなるだろうなと思った。
- 安藤さんのお話し、売るためにまわすために大切な事をたくさん聞けた。同じ品質で欠品なく。売れる堆肥づくり。
- 畜産農家と耕種のつながりをつくる。
- あまり参加した事のない形でした。勉強になりました。
- 生産した堆肥の売り先までビジョンを持つ事。農家（使う側）との連携。牛足でゆっくり確実に進むこと。
- チョコさん（板書）のまとめ。
- サンクラフト安藤様の話が参考になった。
- 安藤さんのお話しが 1 番現実的で納得。わかりやすく聞きやすい内容でした。
- 補助金に頼っては持続的活動は出来ない。農家の努力が一番必要。農家の意識改革。
- サブセッション、グループでの話し合いは良かったです。（色んな業者、属性に会えて目線も違う）
- 循環サイクルがスムーズに動くためには産官学の協調が重要だと感じた。立場、体力の違いが大きい産業だけにどこに基準をおくのか、取りこぼしがない体制づくりが出来るのか。
- 企業連携の話、ビジネスとしてやりとげられる可能性を感じた。

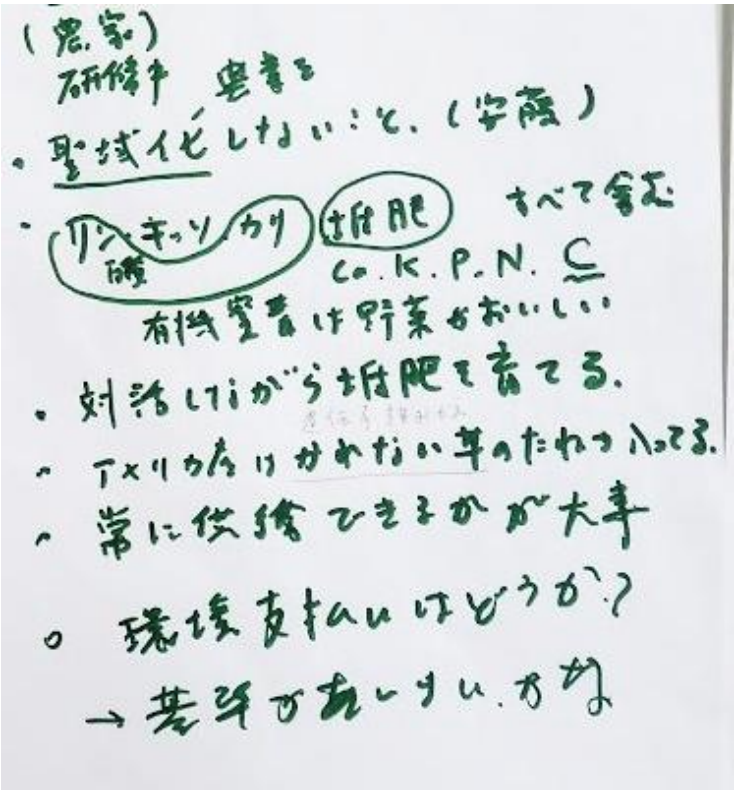
<u>７．会議運営に関してのご意見・感想</u>

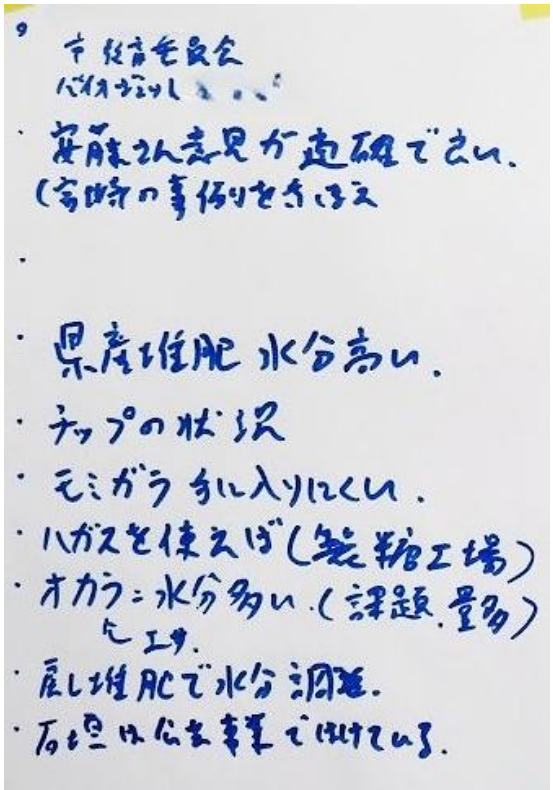
- 良かったと思います。
- 板書の方のまとめ力がスゴイ！
- 円卓会議の回数を増やして欲しい。
- 黒島でもやりましょう。
- 是非、第 2 回目の開催を希望致します。まずは県内での優良堆肥舎のモデル確立をしたい。
- センターメンバーが人数がちょうどよい。多すぎたらダレる。耕種農家への周知が少ない。
- 今日は勉強になりました。
- 板書すごい。
- 宮崎県での成功例をうるま市で実現させて、沖縄県の全域に広めたい。
- 今、養鶏農家（南部）とも耕種連携土壌をすすめようとしているところですが、それにもつながりそうなとても良い会議だった。うるま市の事業として役所や琉大の関わりが強いことがとても良いと思った。
- 最後のチョコさん（板書）のまとめがすごすぎました。
- 円卓以外の参加者をおいてきぼりにしてる感がすごい。実際、市内の畜産農家の一部しか共同堆肥舎の話は知らないし「具志川でやる」というスタンスなので石川、与勝は入ってないので実質 50 件の農家だけです。もっとオープンに市内全農家をまきこんで欲しい。農家の参加者が少ないのを見ると、これをやりたいのは琉大では？本当に農家なのか？
- 進行がスケジュール通りに進まず、意見交換の時間がけずられて何の為の円卓会議なのか、誰のための会議なのかはっきりしない会議だった。手書きの板書は必要ですか？どこで閲覧できるんでしょうか→HP 等で見れなければ意味がない。
- これからの課題が山積のように感じている。共同会社は組合的な組織が良いのかなと思っている。

（写真）会場の様子

＜サブセッション　記録用紙＞　※編集：参加者名は削除







耕種　　野菜16年目

ちくさん

（環境省）　なにを手伝う/民間から地域じゅんかん共生

ちくさん

悩み

耕
- のうかの特徴がない → 農事でつながり、これから発展
- 堆肥を使いたくても

畜
- ふんにょう処理ができてないことに気づき作りはじめた

スペースが足りない、きかい故障等で大変、十分同でやることでかいけつ

牛舎＋堆肥舎

大きさ　増頭

散布の機械 レンタル

運搬車

（家畜ふん尿処理課題）

・ご自身で、堆肥化し草地に散布している。

・業者へ運んでいる。（ご自身で）

・業者からの副資材（木チップ）を混ぜて、水分調整を行う。

・運搬・副資材（チップ）の提供を頂きたい。→牛の飼養管理のため

・共同施設を運営するに当たり各週のローテーションや機械の管理を行う必要がある。

・堆肥として使用するのに要する期間は、約30日。（1ヶ月）

・さとうきび生産者へ製品化した堆肥を使用する。

臭いの問題はおこか、クレームこない？
消費者から、この肥つかうと新草が
はえるって言われた。JA園芸部
らくのうのつかは水分がタクいのでがえとれる？
内容はどうなのか知りたい
まく問題、値段なのはペレットイヒでは？
さんぷき、たくないとむずかしい。
面積

時期、さんぷきにあうのか？
はんばうき

他 7.8月期間げんていでばうを売っている。
品質の安定化大事、価格

実家が麦、畑あり。
ちゃんとしたものを作らないとダメ
規模かかわってるのすごい
あなたも同じことをやった。リーダー大事。
定期的プラスかつ、経験かつ。あと
ナンカ知肥センターは汚でり処理で利益あげてる
作業量がおくちっている。
一般の方たちに知って、買ってもらえるようがしたい

・1回の一来るトラック4台.
(week)

・耕種農家と畜産農家との接点が、そもそもなかった → 改善期待
・散布に配慮
小規模農家 → 共同堆肥舎へ参入できるかどうか?

課題
・県産堆肥の品質向上
→ 水分調整材の調達難しい
→ バガス、おから、などの活用.
・畜産農家の意識改革) 誤解共有
・耕種側 〃
・子供らへの意識付け

・肥料取締法

固牛 16頭 → 3日
草地 → 牧草

・野積み
・価格 ・将来への不安

※沖縄有機 ゼロ円 → 11,000円/年
↓
2,750円/トン

フンの処理で追いつかず
増頭が難.

散布・販売セット

※ハード面(設備・新機材)の整備.

・沖縄市で化肥のみでやっている農家.
・ハウスでくだもの作っている.
堆肥は大変なので使ってない.
1万/10t 沖縄有機 → 15万
になったのもあって使ってない.
・畜産飼料畜業 → 環境省へ.
・実状は共同堆肥舎は半分以上うまくいってない.
大規模化で共同堆肥舎が不要になるから.
小規模で成立する(畜・耕共で)状況がないとうまくいかない.
・化肥 → 堆肥に切りかえるには説明できる人がセットになる必要アリ

検査会社、飼料会社、畜産農家、コンサル会社、

・自社で処理している。草も自社ジョンカンしている。

・投資対効果がみえない。

・宮崎、トリの場合 水分50%、㊐1,000円